

# 峨嵋露頂が び ろ ちょう凶ま卷まき

東京黎明アートルーム  
TOREK MUSEUM OF ART

出品リスト  
2020年12月1日(火)～12月25日(金)

## 鍋島なべしまと景德鎮けいとくちんの小さな五彩ごさい

### 1F エントランス 《彫刻》

作品名	作者 / 窯 / 出土地等	時代
*トラナ横梁 如来と十二人の供養者	インド・マトゥラー	クシャーーン朝 2-3世紀

### 1F 第3展示室(手前) 《やきもの》景德鎮の五彩官窯 / 《やきもの》鍋島

作品名	作者 / 窯 / 出土地等	時代
五彩牡丹文盤	中国・景德鎮窯	明時代中期 16世紀
五彩蓮華文盤	中国・景德鎮窯	明時代中期 16世紀
五彩花蝶文杯 「大明嘉靖年製」銘	中国・景德鎮窯	明時代 嘉靖年間(1522-66)
五彩果樹鳥文盤 「大明嘉靖年製」銘	中国・景德鎮窯	明時代 嘉靖年間(1522-66)
五彩雲龍文方壺 「大明嘉靖年製」銘	中国・景德鎮窯	明時代 嘉靖年間(1522-66)
黄地青花宝相華唐草文壺 「大明嘉靖年製」銘	中国・景德鎮窯	明時代 嘉靖年間(1522-66)
紅地緑彩唐子文角鉢 「大明嘉靖年製」銘	中国・景德鎮窯	明時代 嘉靖年間(1522-66)
五彩人物文盤 「大明萬曆年製」銘	中国・景德鎮窯	明時代 万曆年間(1573-1620)
五彩松竹梅文盤 「大明弘治年製」銘	中国・景德鎮窯	明時代 弘治年間(1488-1505)
錆釉折紙形角皿	伊万里・古九谷様式	江戸時代(1640-50年代)
瑠璃錆釉金銀彩草紙文変形小皿	鍋島	江戸時代(1650-60年代)
色絵花卉文鉢	伊万里・古九谷様式	江戸時代(1640-50年代)
色絵唐花七宝文輪花小皿	鍋島	江戸時代(1650-60年代)
色絵唐草文稜花小皿	鍋島	江戸時代(1660-70年代)
色絵松皮菱菊唐草文小皿	鍋島	江戸時代(1660-70年代)
色絵唐花文変形向付	鍋島	江戸時代(1660-70年代)
色絵菊水文輪花小皿 五客	鍋島	江戸時代(1670-80年代)
色絵秋草流水文皿	鍋島	江戸時代(1680-1700年代)
色絵網代文小皿	鍋島	江戸時代(1680-1700年代)
色絵網代文皿	鍋島	江戸時代(1680-1700年代)
色絵唐花文皿	鍋島	江戸時代(1680-1700年代)
青磁染付椿文小皿	鍋島	江戸時代(1680-1700年代)
青磁染付雪景山水文皿	鍋島	江戸時代(1680-1700年代)
青磁染付雪輪文縁波形向付	鍋島	江戸時代(1650-60年代)
青磁染付紫陽花文向付	鍋島	江戸時代(1670-80年代)
染付蜘蛛巣文葉形皿 二客	鍋島	江戸時代(1680-1700年代)
青磁葉形皿	鍋島	江戸時代(1680-1700年代)
青磁小皿	鍋島	江戸時代(1680-1700年代)

## 1F 第3展示室（中央） 《彫刻》

作品名	作者 / 窯 / 出土地等	時代
如来及び梵天帝釈天を含む十三人の供養者群像 (仏陀と十三人の使徒)	中央アジア	4世紀
* 仏三尊像	パキスタン	クシャーン朝 2-3世紀
* 焰肩仏坐像	アフガニスタン	3-4世紀
* 持蓮華菩薩立像	パキスタン	クシャーン朝 2-3世紀
* 舍衛城の神変	アフガニスタン	3-4世紀

## 1F 第3展示室（奥） 《絵画》尾形光琳・与謝蕪村 / 《映像》

作品名	作者 / 窯 / 出土地等	時代
籬夕顔図屏風	尾形光琳	江戸時代 18世紀
峨嵋露頂図巻	与謝蕪村	江戸時代 18世紀
Image Projection 《峨嵋露頂図巻》	TokyoReimei ArtFilm / D	令和2年(2020)

## 2F 第2展示室 《やきもの》鍋島 / 《絵画》書状

作品名	作者 / 窯 / 出土地等	時代
色絵宝尽文大皿	鍋島	江戸時代(1680-1700年代)
色絵宝尽文大皿	鍋島	江戸時代(1680-1700年代)
書状(車軸の釜…)	本阿弥光悦	江戸時代 17世紀
書状 道二老宛	本阿弥光悦	江戸時代 17世紀

## 2F エレベーターホール 《写真》

作品名	作者 / 窯 / 出土地等	時代
マリアの夫ヨセフ	六田知弘(1956- )	2006年撮影 フランス サン・マルタン・ド・フノヤール教会の壁画(12世紀)

※ 出品作品は変更になる場合がございます  
 ※ 常設展示作品には、\*印がついております

## 1F 第3展示室（奥） クイズの解答

### 尾形光琳の年譜

一六五八 《次男》として  
 一六八七 《乾山》は遺産を  
 一六八九 綱平は以後《パトロン》と  
 乾山は《野々村仁清(ののむらにんせい)》より  
 一六九九 乾山が《鳴滝(なるたき)》に  
 中村内蔵助も《パトロン》と  
 一七〇四 内蔵助を追って《江戸》へ  
 一七〇九 肌が合わず、《京》へ  
 《一七一六》 六月、生涯を閉じる。

### 与謝蕪村の年譜

《一七一六》 摂津国東成郡毛馬村  
 (現・《大阪》市都島区毛馬町)  
 一七三五 郷里を去って《江戸》に  
 一七四二 師《巴人(はじん)》没  
 《江戸》を去って  
 一七四四 「《蕪村(ふそん)》」の号  
 一七五一 木曾路を経て、《京》へ  
 一七五四 夏までに、《京》を去って  
 一七五七 丹後与謝から《京》に  
 一七七八 「《謝寅(しゃいん)》」の画号